**ミツバチの大量失踪（CCD＝蜂群崩壊症候群）レポート**

2018年5月26日6Chで「ミツバチと農薬」（18:20～18:35）

最近、相次ぐミツバチの集団失踪で現場は大混乱しています。このミツバチの現象はアメリカではCCD＝蜂群崩壊症候群と言われている蜂特有の現象で、その原因が未だ特定されていませんでしたが、日本のミツバチに関わる養蜂業者や大学の研究者によって、その実態が農薬によるものと結論付けられようとしています。これはそのレポートをまとめたものです。（日本レンゲの会事務局次長・西村安弘）

2013年夏の事、神奈川県葉山市の養蜂業者の石井さんの話によると、「68箱の養蜂箱の内、3箱を残してあとの65箱が全滅しました。1箱に5万匹のミツバチが集団生活をしていて、その箱の重さは3kg～4kgです。近くに散布された農薬によるものと思われます。」という報告をしました。さらにこの葉山の石井さんの養蜂場では2018年8月～9月の中旬にも7割が全滅して、石井さんは近くの稲作の農薬を疑ったという事です。

この農薬はネオニコチノイド系の農薬で、以前に使われていた非リン系の農薬とは違うもので、この農薬の使用はカメムシの駆除のために使われるようになったという事です。

金沢大学の山田さんは、2010～2015年にハワイ・マウイ島で農薬によるミツバチへの影響を実験しました。この島にした理由は、ミツバチの失踪原因の一つとされていたミツバチに寄生するダニがこの島にはいないからでした。ネオニコチノイドの濃度を高・中・低にしてミツバチをこの環境に置いた所、高では全滅、中・低では花粉の中に農薬の飛散分が残ってほとんどのミツバチがいなくなったんです。これはミツバチの神経がネオニコチノイドの薬害の影響で壊されて、巣に帰る機能を奪ってしまったのが原因でした。現に葉山の養蜂場でも女王蜂と幼虫を残して全部の働きミツバチがいなくなったという報告に説明を付けてくれる実験結果が得られたということです。

それでは稲作農家はなぜこのネオニコチノイドをカメムシ駆除につかうのかというと、稲にカメムシがつくとコメが黒くなってしまいますので、その黒ずみのせいでコメの等級が１等から２等3等と落ちて値段が落ちるのです。これに対処する機械もあるのですが、この処理はカメムシで黒くなった米粒を一粒ずつ選別して取り除くもので、100万円200万円もする機械では、なかなか現場で設置することはできません。黒くなっても食べるのに影響はないのです。というのは黒いのは米粒の表面だけで精米をすると黒味は削られてなくなってしまうからです。しかし消費者はどうしてもきれいな白い米を求めますので、黒くならないように農家は農薬を使用することになるのです。

このCCDは岩手県の藤原養蜂園でも起こりました。この時の状況を藤原さんは次の用に報告しています。「ミツバチが足元にバタバタと落ちて巣箱の前にうず高くなって死んでいました。」

それで藤原さんは民間業者に調査を依頼しました。その結果は、クロチアニジン（ネオニコチノイド系の一種）が見つかって、死因は農薬となったので被害賠償を求めました。その結果500万円の補償が得られ危機を逃れたという事です。

2006年にはまた岩手県で起こったので、裁判に訴えたのですが、この時は農薬使用足止めには至らず、農薬散布の事前通告義務と養蜂業者の巣箱移動の対策をするように提案されています。しかしこの決定は養蜂業者には大変な事でした。何故かと言うと、田には熊は出るし、花がなくなると生きては行けないし、巣箱1箱は3kg～4kgもあって、それで農薬の影響を受けない所を探すとなると、その移動は大変な骨になるのです。

また、秋田県のコメ生産農家の阿部さんは、コメの等級の仕方に疑問を感じてこのような報告をしています。反転米百色米、米穀検査制度で2等米を出さないようにするには農薬を使わざるを得ないのが実情なのです。この検査制度の仕方はトレーに収穫したコメ粒をのせて、1000粒に黒が1粒なら1等米になるし、2粒なら2等米、3粒なら3等米になるんだと言います。これに阿部さんは農薬を一切使っていないのに、こんな厳しすぎると言っています。お客様の我慢でこの等級はなくなるとも言っています。

JAでは1俵当たりでこの等級は1000円違ってきますので、農家は困ります。それでネオニコチノイドを使わざるを得ないわけです。農薬を使わないと斑点がつく。実は定められた量を使うと斑点はつかないといいます。

「目指せ一等米、カメムシ駆除、農薬を使わなくするには検査制度をける事」農薬を使わないで済むなら、我々も高いコストを掛けなくてもコメ作りが出来るというのがコメ生産農家の声です。

ミツバチの農産物に対する必要度は重大なものなのですとは、グリーンピースジャパンの代表者は言っています。そしてEUは先月27日にネオニコチノイドの全面禁止を発表しました。欧米の作物では薬を機械でコーティングして畑に撒く事をしていますが、これも薬の粉塵をまき散らすという事で日本では必要ないと判断されています。

養蜂業者の石井さんは、「ミツバチで人間は生きて行けるのです。それで私はミツバチを凄い大事な仲間だと思っています」と言っています。

コメ生産農家は色選別では残るコメの量が少なくなるし、農薬でコストは高くなるし、等級では消費者には関係のないものになっているのだから、失くしてもいいのではないかと訴えています。

更に日本のミツバチはスイカ、カボチャ、トマトなどの結実になくてはならないものになっていますので、ミツバチがいなくなるという事は、コメ以外の農作物が出来なくなってしまうという大事態になるのです。このことも十分に皆様の記憶に残していただきたいと思います。